

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	各学年、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。これは、ドリルやプリント等での反復的な取組の成果と思われることから、今後も継続して行っていきたい。また、タブレットのアプリ等もさらに効果的に活用し、それぞれの児童の学習定着度に応じた学習指導の工夫を図っていきたい。また、「国語の漢字を文の中で正しく使う」ことについて改善が見られたものの、まだ若干の課題があるため、次年度も朝のモジュールの時間を活用しながら、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について重点的に取り組み、改善状況を検証していきたい。	
思考・判断・表現	学習活動の中において、意図的・計画的に協働的な学びを取り入れていく。相手を意識しながら自分の考えを整理し、より分かりやすく伝える機会を各教科だけでなく朝の会・帰りの会などに設けていく。また、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語の「漢字を文の中で正しく使う」ことについて若干の課題がある <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識技能について二極化傾向がある。個別に必要な支援を講じる必要がある	⇒ 学習活動の中で、書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリ等のアプリを効果的に活用し、一人ひとりの課題に合った学習を進めていく【週に1度】。 学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童を主体とした学習活動を展開し、成果や課題を共有していく【月に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語の「相手の意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる」ことについて、課題がみられる <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させる必要がある。	⇒ 協働的な学びを取り入れ、相手と自分の考えの相違点を意識させながら意見交換し、記録できるような活動を行っていく【1年間】。 各教科の学習活動において、根拠資料をもとに自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝える活動を行う【1年間】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	学習活動の中で、書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリ等のアプリを効果的に活用し、一人ひとりの課題に合った学習を進めることができた。その結果、「漢字を文の中で正しく使う」ことについて、改善がみられたが、まだ十分とは言えない。次年度も引き続き継続的に取り組んでいきたい。 学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した積極的な公開授業を全職員が実施したことにより、成果や課題を共有し、授業改善につなげることができた。	
思考・判断・表現	B	相手と自分の考えの相違点を意識させながら意見交換したり、記録したりするような協働的な学習活動を行う機会を増したことで、令和6年度と比較し、改善が見られた。しかし、相手を意識し、根拠を明確にしなが、工夫したまとめ方や伝え方について課題が残った。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語について、満足いく結果であった。その中で、令和6年度の課題であった「漢字を文の中で正しく使う」ことについて、言葉の特徴や使い方に関する学習活動を意図的に設定したことにより、正答率が改善されてきている。 算数においても、十分満足いく結果となった。「数と計算領域」において、他の領域と比較し無回答率が高い傾向がある。理科においても十分満足いく結果となった。しかし、「理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること」について課題がみられた。	
思考・判断・表現	国語において、満足いく結果となった。しかし、全国、県の平均を上回っているものの、「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」について、他の設問と比較し正答率の差が小さかった。 算数においても、十分満足いく結果となった。その中で、「数と計算」領域の、「分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること」についての無回答率が他の設問と比較し低かった。自分の言葉や数を用いて説明する学習活動を意図的に取り入れていきたい。 理科においても、十分満足いく結果であった。「問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験方法が適切であったかどうか検討し、表現すること」について、正答率の差が小さかった。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	全学年とも、平均正答率について概ね満足いく結果となった。 算数の「数と計算」領域において、全学年とも正答率が市平均と比較して高く、無回答率も低かった。授業や朝の活動を利用した反復練習の成果が現れたと思われる。 中学年国語の「言葉の特徴や使いかたに関する事項」において他の領域と比較し、やや正答率に課題がみられた。 漢字の反復練習による定着ではなく、文中で使用されている漢字の意味を考えながら使うことに課題あると考えられる。 理科の「生命」、「地球」を柱とする領域において、正答率は平均を上回っているものの、無回答率が他の療育と比較して高かった。	
思考・判断・表現	全学年とも、各教科において十分満足いく結果となった。 高学年の算数の各領域において、平均正答率が市の平均正答率を大きく上回った。 中学年国語の「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、文章を読む」、「書こうとすることをはっきりさせ、段落を考えて文章を書く」ことについて他の内容項目と比較し若干の課題がみられた。無回答率も他の教科と比較して高い傾向がある。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学習活動の中で、書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリ等のアプリを効果的に活用し、一人ひとりの課題に合った学習を進めている。 学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童を主体とした学習活動を展開し、学年会などを利用して成果や課題を共有している。	変更なし
思考・判断・表現	B	協働的な学びを取り入れ、相手と自分の考えの相違点を意識させながら意見交換し、記録できるような活動を行っている。 各教科の学習活動において、根拠資料をもとに自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝える活動を行っている。 夏季休業中に指導者を招聘し、授業改善に向けた研修を実施した。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)